

生活状況に関する調査 概要

1 調査の概要

(1) 調査対象

母集団：全国の市区町村に居住する満40歳から満64歳までの者

標本数：本人5,000人と同居する成人

(2) 調査時期

平成30年12月7日～12月24日

(3) 標本抽出方法

地点数：199市区町村 200地点（1地点25人）

抽出方法：層化二段無作為抽出法

(4) 回収結果

有効回収数（率）：本人3,248人（65.0%） 同居者2,812人

2 用語の定義

(1) 広義のひきこもり群

本人票「ふだんのくらい外出しますか」の間に、下記5～8のいずれかと回答し、かつ、その状態となつて6か月以上経つと回答した者

5. 趣味の用事の時だけ外出する
6. 近所のコンビニなどには出かける
7. 自室からは出るが、家からは出ない
8. 自室からほとんど出ない

ただし、次の者を除く。

- ア) 自営業・自由業を含め、現在、何らかの仕事をしていると回答した者
- イ) 身体的な病気がきっかけで現在の状態になったと回答した者
- ウ) 現在の状況を専業主婦・主夫、家事手伝いと回答したか、現在の状態になったきっかけを妊娠、介護・看護、出産・育児と回答した者のうち、最近6か月間に家族以外の人とよく会話し、ときどき会話したと回答した者

(2) 過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群

本人票「あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか」の間に、下記の1～4のいずれかと回答した者。

1. 趣味の用事の時だけ外出する
2. 近所のコンビニなどには出かける
3. 自室からは出るが、家からは出ない
4. 自室からほとんど出ない

ただし、次の者を除く。

- ア) 身体的な病気又は自宅での就業・就労がきっかけで現在の状態になったと回答した者
- イ) 本人が上記で1と回答し、かつ同居者が「1～4のような状態に6か月以上連続してなったことはない」と回答した者

3 調査の主な結果

(1) 広義のひきこもり群の出現率及び推計数

今回の調査結果における広義のひきこもり群の出現率は1.45%であり、推計数は61.3万人である。

※ 調査対象である満40歳から満64歳までの人口は、4,235万人

	該当人数(人)	有効回収数に 占める割合(%)	全国の推計数(注1) (万人)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	19	0.58	24.8	} 準ひきこもり群 24.8万人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	21	0.65	27.4	
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	7	0.22	9.1	} 狭義のひきこもり群 36.5万人
計	47	1.45	61.3	

(注1) 総務省「人口推計」(平成30年)によると、40~64歳人口は4,235万人であることから、全国の推計数は、有効回収数に占める割合(%)×4,235万人=全国の推計数(万人)となる。

(注2) 該当人数47人のうち、現在の状況を専業主婦・主夫、家事手伝いと回答したか、現在の状態になったきっかけを妊娠、介護・看護、出産・育児と回答した者は11人であった(平成27年度調査(満15歳から満39歳までが対象)では、上記の者は広義のひきこもり群から除外している。)

<参考：平成27年度調査(満15歳から満39歳までが対象)における広義のひきこもり群の出現率及び推計数>

平成27年度の調査結果における広義のひきこもり群の出現率は1.57%であり、推計数は54.1万人である。

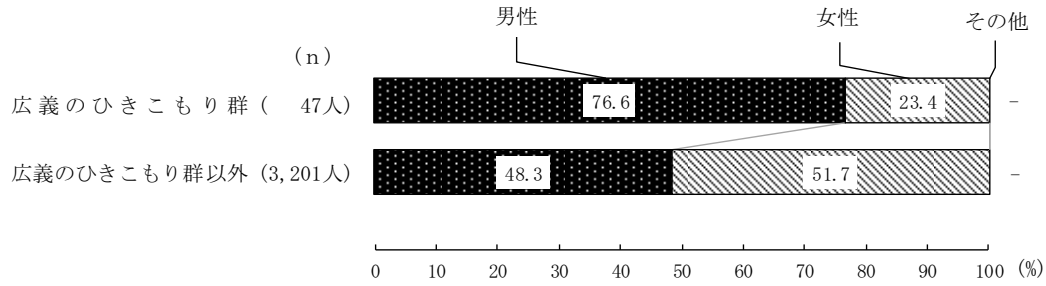
※ 平成27年度調査時の調査対象である満15歳から満39歳までの人口は、3,445万人

	該当人数(人)	有効回収数に 占める割合(%)	全国の推計数(注2) (万人)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	33	1.06	36.5	} 準ひきこもり群 36.5万人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	11	0.35	12.1	
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	5	0.16	5.5	} 狭義のひきこもり群 17.6万人
計	49	1.57	54.1	

(注3) 総務省「人口推計」(平成27年)によると、15~39歳人口は3,445万人であることから、全国の推計数は、有効回収数に占める割合(%)×3,445万人=全国の推計数(万人)となる。

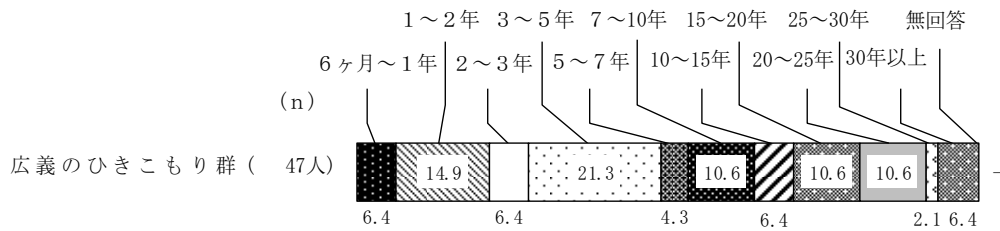
(2) 性別 (Q 1)

広義のひきこもり群では、男性が4分の3以上を占める。



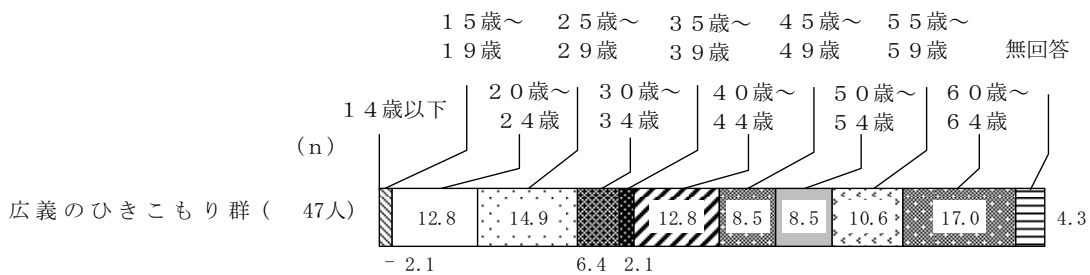
(3) ひきこもりの状態になってからの期間 (Q 2 0)

ひきこもりの状態になってからの期間は、3～5年の者の割合が約21%と最も高く、7年以上の者が約5割。



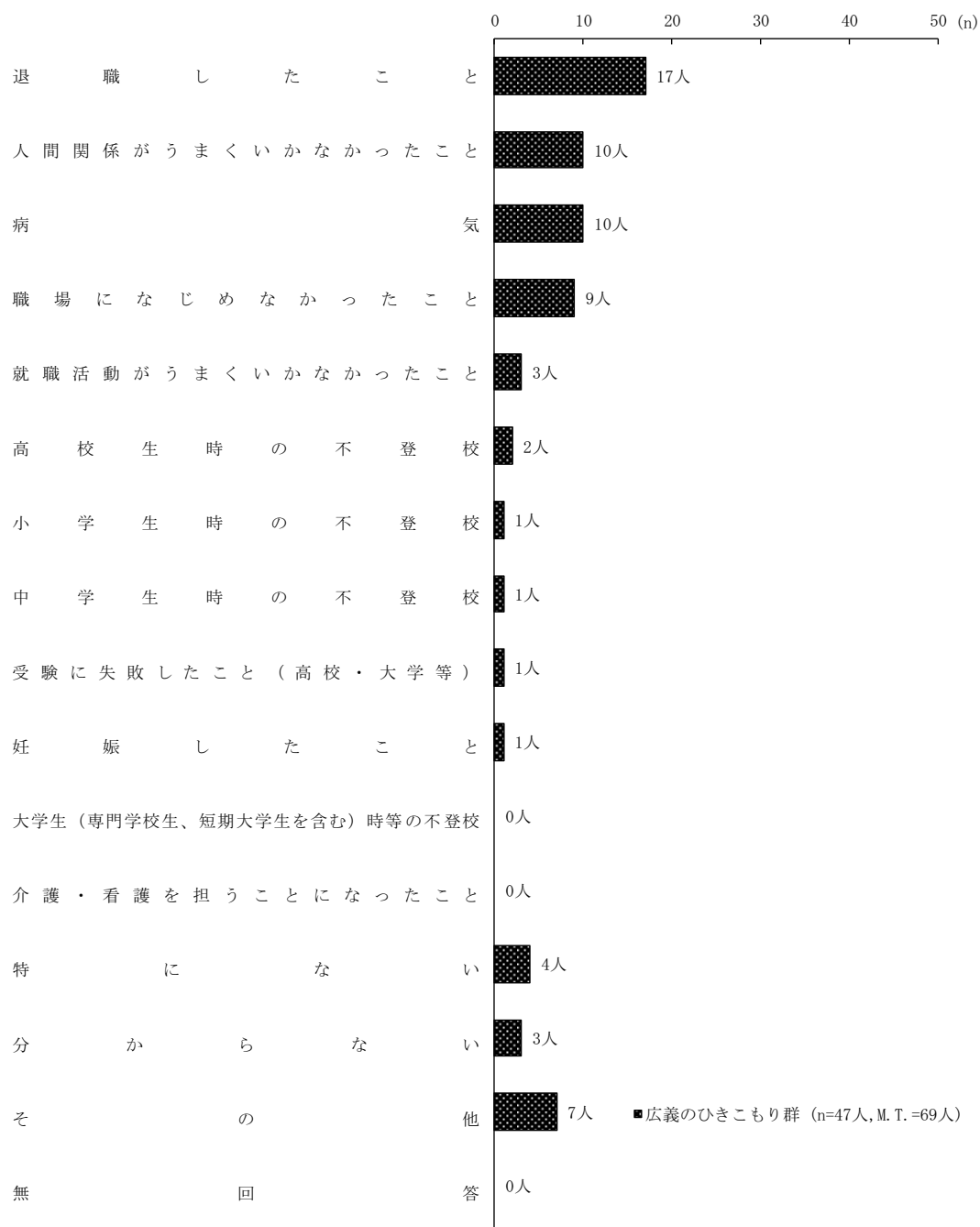
(4) 初めてひきこもりの状態になった年齢 (Q 2 1)

初めてひきこもりの状態になった年齢は、30歳台の者の割合が若干低いものの、全年齢層に大きな偏りなく分布している。



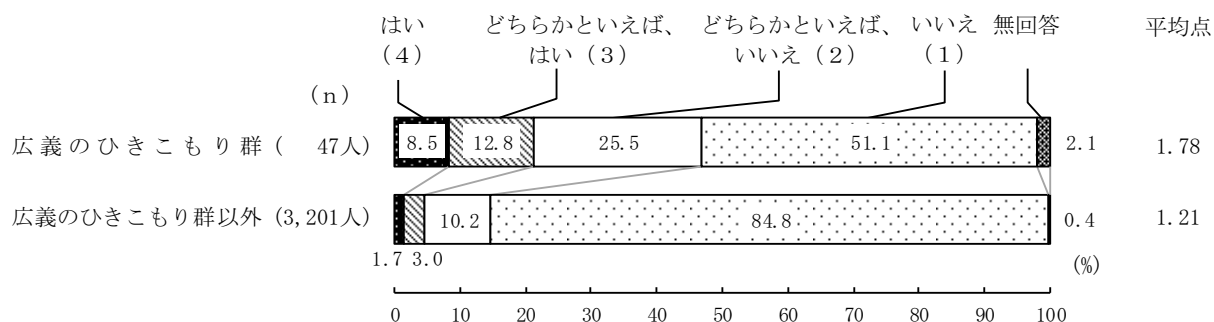
(5) ひきこもりの状態になったきっかけ (Q 2 3)

ひきこもりの状態になったきっかけは、「退職したこと」、「人間関係がうまくいかなかったこと」、「病気」、「職場になじめなかったこと」をあげた者が多い。



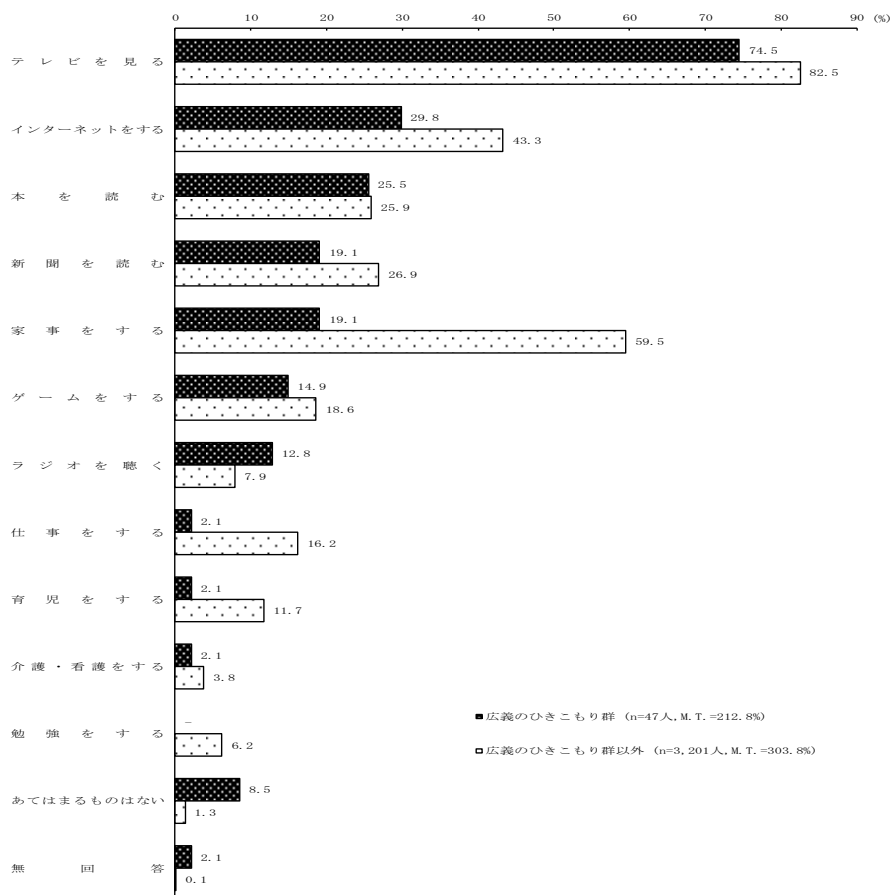
(6) ふだんの生活態度について、昼夜逆転の生活をしている (Q 3 7)

広義のひきこもり群では、昼夜逆転の生活をしている者の割合が高い傾向がある。



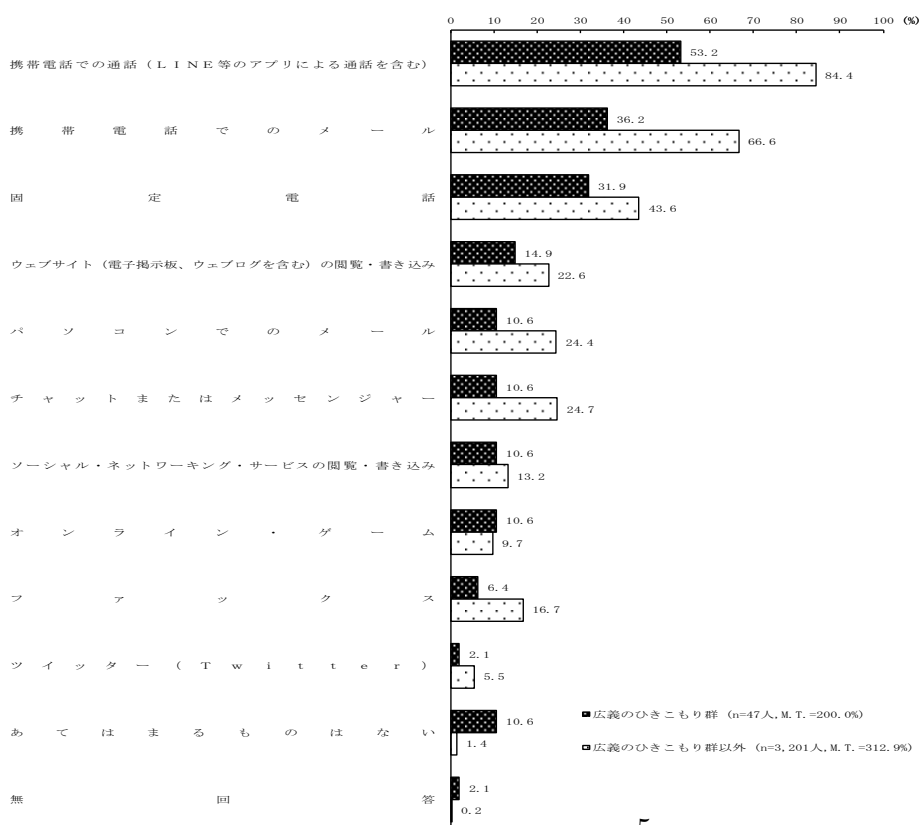
(7) ふだん自宅でよくしていること (Q17)

広義のひきこもり群以外と比較して、「ラジオを聴く」をあげた者の割合は、広義のひきこもり群の方が高いが、「テレビを見る」、「インターネットをする」などをあげた者の割合は、広義のひきこもり群の方が低い。



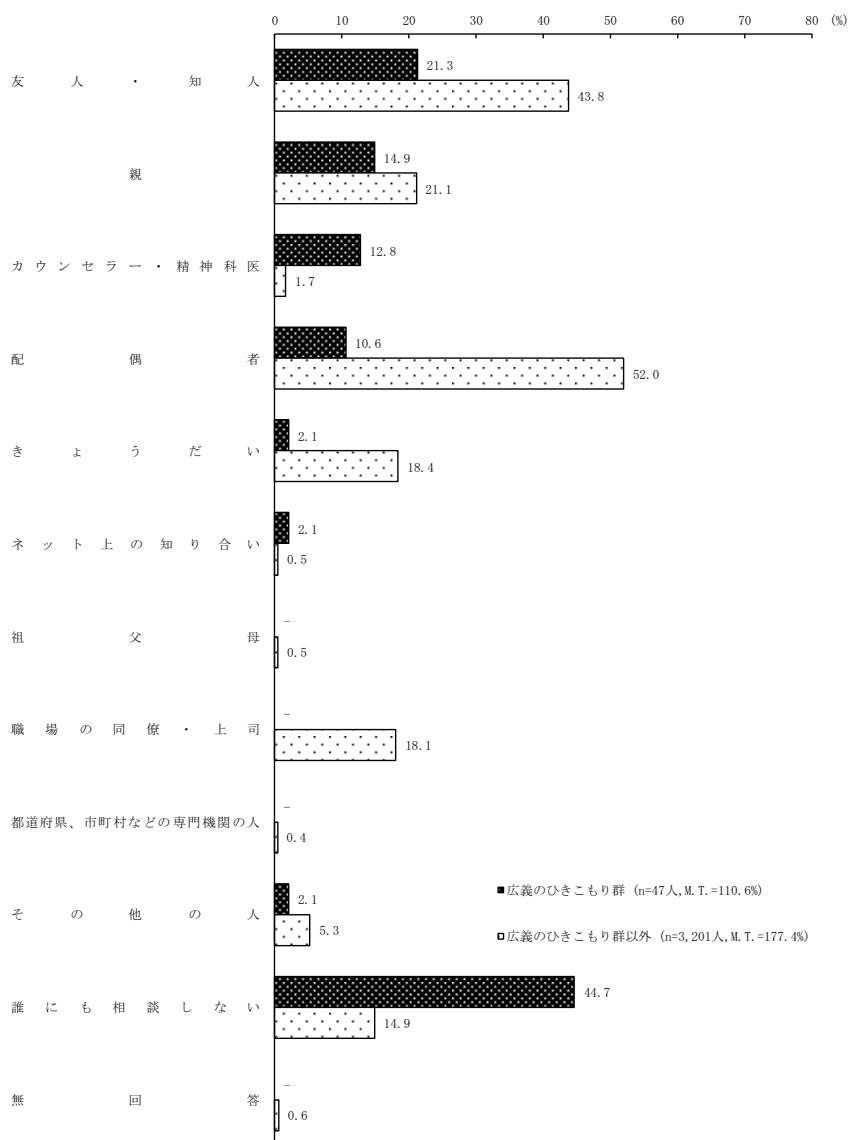
(8) 通信手段でふだん利用しているもの (Q18)

広義のひきこもり群以外と比較して、「オンライン・ゲーム」以外の通信手段をふだん利用している者の割合は、広義のひきこもり群の方が低い。



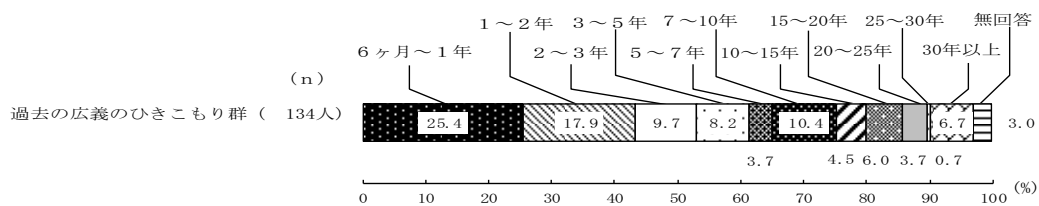
(9) ふだん悩み事を相談する相手 (Q40)

広義のひきこもり群以外と比較して、広義のひきこもり群では、「配偶者」、「友人・知人」と回答した者の割合が低い。また、広義のひきこもり群では、4割以上の者が「誰にも相談しない」と回答している。



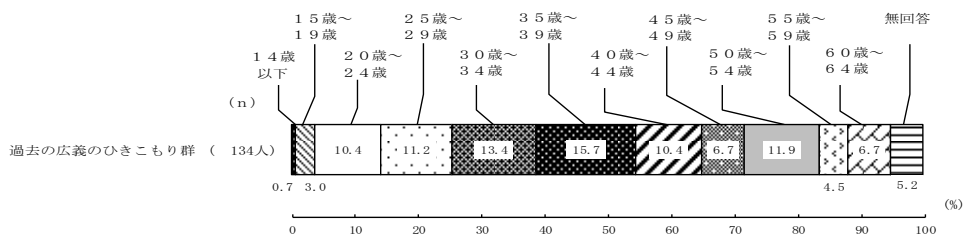
(10-1) 過去にひきこもりの状態であった期間 (Q 3 1)

過去にひきこもり状態であったと思われる期間は、6ヶ月以上1年未満の者の割合が約25%と最も高く、3年未満の者の割合が5割以上を占める。



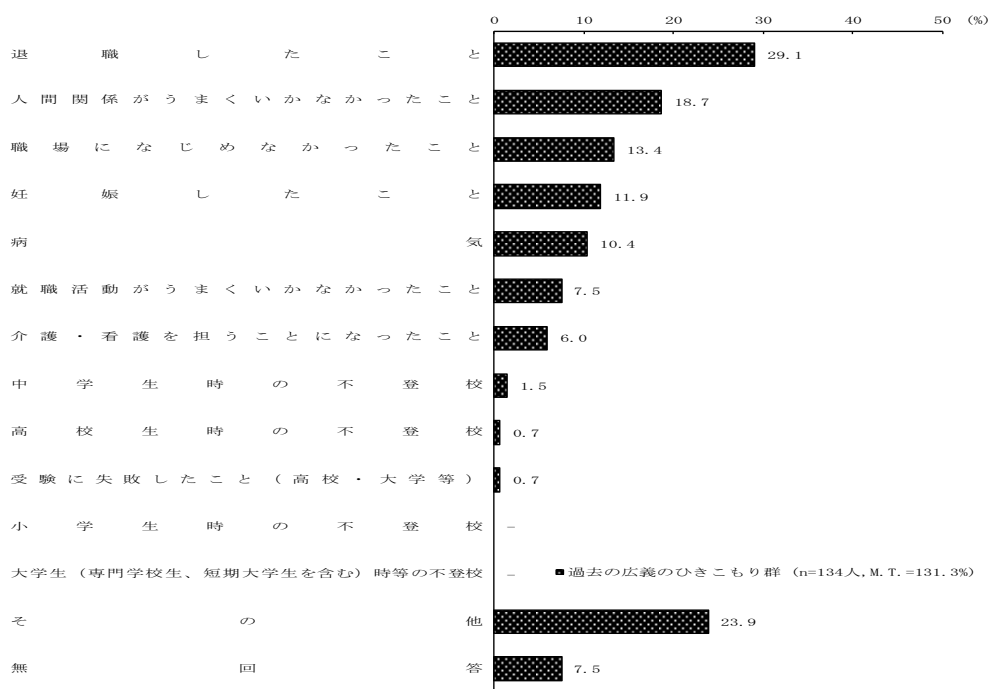
(10-2) 過去に初めてひきこもりの状態になった年齢 (Q 3 2)

過去に初めてひきこもりの状態になった年齢は、全年齢層に大きな偏りなく分布している。



(10-3) 過去にひきこもりの状態になったきっかけ (Q 3 3)

過去にひきこもりの状態になったきっかけとして割合が高かったのは、「退職したこと」、「人間関係がうまくいかなかったこと」、「職場になじめなかったこと」、「妊娠したこと」、「病気」の順となっている。



(10-4) ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったこと (Q 3 4)

- <回答抜粋>
- ・粘り強く職安で自分が出来そうな仕事を探したからだと思う。
 - ・気にしてくれる家族、友だちが、ときどき声をかけてくれたこと。
 - ・病院のデイケア
 - ・社会と関わりたいと思った。毎日が退屈に感じた。
 - ・特にない。自然と。
 - ・友達に趣味に誘われて出かけるようになりました。